



# CONDENSED CONJUGATION NEWS Vol. 32

## 若手会の広がり

橋本 顕一郎 (東京大学)

須田 理行 (京都大学)

酒巻 大輔 (大阪公立大学)



橋本博士



須田博士



酒巻博士

——今回は高密度共役若手会の活動について、世話人のお三方に伺います。若手会については、以前にもお話を伺いました(2021年10月号)。その時は、コロナ禍のために対面での会合が難しい中、SlackやZoom、oViceといったツールを活用し、大学や研究室の枠を超えたコミュニケーションを図っているといった内容でした。その後、若手会の活動はどうなっていますでしょうか？

**酒巻** その後もオンラインの会合は定期的に行っています。領域内外から講師をお呼びして、研究のことや学生に対するメッセージなどを話していただく講演会を、二か月に一度程度開催していました。

——どういった方にお話をいただいているのでしょうか？

**酒巻** 教育系NPOの方、博士課程を出て企業に行った方、また川合眞紀先生のような著名な研究者など、いろいろな方に登場いただいています。

**須田** また年に2回程度、最初にゲストスピーカーに講演をいただき、その後オンラインでポスターセッション、懇親会を行う大きな会を行ってきました。

——学生さんも、こうしたオンラインの会合には慣れたものなのですね。対面での会合も始まっているのでしょうか？

**酒巻** 我々教員は、昨年あたりから少しずつ対面での交流も行ってきましたが、学生同士の会合はなかなかできないでいました。しかしこの5月25・26日に京都大学吉田・桂キャンパスで、初めて合宿形式のワークショップを行うことができました。

——どのような会合だったのでしょうか？

**須田** 北は北海道から西は広島まで、多くの学生さんが集まりました。25日は、若手会世話人代表の橋本顕一郎さんからの挨拶の後、高密度共役ジュニアフェローのみなさんからそれぞれ30分ずつ、研究発表が行われました。これはジュニアフェローのみなさんの顔見せ、そしてこれからジュニアフェローを目指す人たちへの内容の紹介も兼ねています。



**橋本** ジュニアフェローのみなさんは研究のレベルも大変高く、合宿を企画して本当に良かったと思わせてくれました。

——学生のみなさんは、コロナ禍でなかなか学会参加もできなかったでしょうから、こうした集まりはかなり新鮮だったかもしれませんね。

**須田** とはいえ発表などはみなうまくなされていて、不慣れな感じは全くありませんでした。

**酒巻** 2日目は研究室見学ということで、京大桂キャンパスに移

動して、松田建児・生越友樹・関修平先生の研究室を回るラボツアーが行われました。上記の研究室にどのような設備があり、どのような測定が可能かというところを見てもらって、共同研究や国内留学を促進する意図がありました。

**須田** 見学についても、学生が取り仕切ってくれました。研究室に手土産まで用意してくれていて、気遣いもすごいなと感じました。

**橋本** また、今後はジュニアフェローが中心となって若手会を運営していく方針になっており、役割分担も取り決められました。実際、6・7月の若手オンライン会は彼らが運営していて、我々はほとんどタッチしていません。講演者の確保、日程調整、Zoomの設定など、学生同士で連絡を取り合って、全てやってくれました。

**須田** 実は次回の合宿も、ジュニアフェローの人たちが候補地の見積もりや講演者の依頼など全てやってくれています。参加者が100人規模になる予定ですが、宿なども見つけて押さえてくれました。

——となると、もう教員はお金を出すだけですか。

**酒巻** 本当にそんな感じです(笑)。サークルなどで経験があるのかもしれませんが、感じます。

——今後はどのような企画を考えていますか？

**須田** 5月の会のように、20~30名規模の対面で、学生同士で発表を行うような会ができればいいかなと思います。

**橋本** 毎年数名ずつ新しくジュニアフェローになる人が出るので、彼らの顔見せにもなるミニワークショップを、半年から一年に一度行えればと。

**酒巻** アカデミアに興味がある学生さんにとっては、名前と仕事内容を知ってもらえるいいチャンスになりそうです。単純に、知り合いが増えて楽しいとも思います。

**橋本** ジュニアフェローに興味がある修士の学生さんに、どういった活動をしているのか知ってもらえる機会になると思います。

——かなりジュニアフェロー志望の学生さんはいそうですか？

**酒巻** 博士課程進学を考えている学生なら、考えるべき選択肢になっていると思います。積極的な学生さんは多いですね。

**須田** 5月の会では様々なジャンルの発表があったのですが、異分野の発表者にも多くの質問が飛んでいました。広い分野に興味を持つきっかけになったのはよかったです。

——そのあたりは対面ならではのかもしれませんが、細かいニュアンスも伝わりますし、終了後にちょっとわからなかったところを聞きに行くということもできますし。

**酒巻** 学生が主役として仕切ったのも、質問しやすい雰囲気作りに作用したように思います。学生同士をミックスさせるなら、教員はあまり表に出ない方がいいのかと思いました。

——学生同士のやりとりから、共同研究に発展したりすれば素晴らしいですね。

**須田** とはいえ、共同研究となると学生同士だけでできることではありませんので。何かアイデアがあったら、我々を通して提案できるような環境を整えたいと思っています。

**酒巻** まずは他の研究室がどうしているのか、学生間で知ってもらうことが大事かなと。

——対面のメリットがよく引き出せていて素晴らしいですね。あえて課題を挙げるとすれば？

**橋本** 若手会は、担当の我々とは連絡を取りやすい関係性になっていますが、領域の中心になっているシニアの先生方とは、まだちょっと距離が遠いかもしれません。今は深澤愛子先生が間を繋いでくれている感じですが。

**酒巻** そのうちワークショップに先生方を呼び出し、質問攻めにするくらいだと面白いかもしれません(笑)。

——その他、これから若手会に入ってくる方にメッセージなどありましたら。

**橋本** まずはオンラインの会や合宿に気楽に参加してもらえればと思います。その中で、それぞれのキャリアパスにつながるものを見つけてもらえればいいですね。

**須田** 先ほどお話ししたように、若手会では教育関係の方ですとか、企業で活躍している方など、様々な人にお話をいただいています。研究者だけではなく、いろいろなキャリアパスを考えるきっかけになると思います。

——若手の活躍に期待大ですね。ありがとうございました。